# 福岡ろう史の編集・発刊

福岡市聴力障害者福祉協会事務局長　金丸桂三

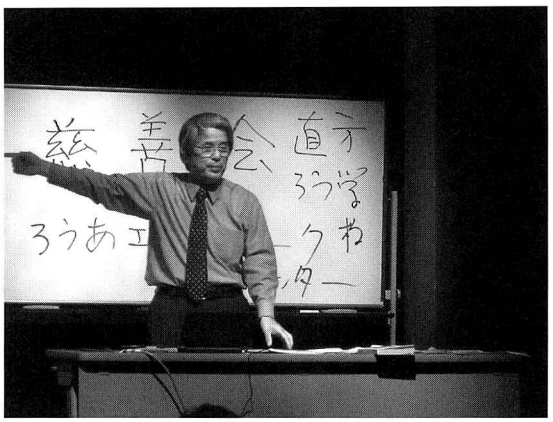
ただいま司会の方からご紹介を受けました、金丸と申します。よろしくお願いいたします。この冊子は福岡県のろうの歴史に関する本です。昨年茨城で開催された全国ろうあ者大会や前回の九州大会の時などに販売し、多くの団体からご購入いただきました。本当にありがとうございます。

私の講演時間は１時間程度と聞いております。今からだと昼食も終わり講演中に眠たくなるのではないかと心配する方もいらっしゃいますでしょうか。昨日も遅くまで飲んでいたという話も聞きましたので、どうぞ無理をせず眠たい方は眠っていただいて結構です。講演は１時間くらいで行います。プロジェクターで全てをご紹介することは時間の都合上難しいようです。飛ばすところもあると思いますが、ご了承下さい。

申し訳ありませんが、講演中に暑くなると思うので、先に上着を失礼して脱がせていただきます。

この本を作成したきっかけは、10年くらい前でしょうか。はっきり覚えていませんが…その頃もろうあ協会の歴史などについて講演をしていましたが、その際に手話の会ができたきっかけは何かといったような質問をたくさん受けていました。それに対して何度も答えるのが大変でしたので、こういった歴史の本を作り、みんなに見てもらえばいいと思ったのがきっかけです。その後すぐには作成が出来ず、その他のろうあ運動などに忙しくしている中、時は過ぎ、なかなか着手することができませんでした。私は26歳の時からろうあ協会の理事を40年間務めましたが、その最後の年にこの歴史の本を作ると決めて、作成にかかりました。まずは２年前に福岡県の理事会に提案・説明を行い、承認を得て、編集委員会を発足させ、作成に取りかかりました。そのメンバーの中で、私が中心となって編集を行いました。言った以上はやり遂げなければいけません。

しかし、本当に調査するのは大変な作業でした。明治の頃からのことはなかなか容易には掴めませんでした。今現在は、ろうあ者はもちろん健聴者も手話を使って当然ですが、ずっと前の手話というのがどこでいつ生まれたのかというのは、わか



りませんよね。その手話が生まれるよりもずっと後にろうあ協会が出来ているわけですよね。

大体明治の辺りからいろいろ調べましたが、なかなか見つかりませんでした。昨日のレポートの中でもいろいろな話がありましたね。しかし、私がお話しできるのはろうあ協会の歴史の話だけで、趣味等のお話はできません。時間がないので、プロジェクターは進めます。手話の始まりに関しては、いろいろインターネット等でも調べましたが、世界で一番初めに出てくる名前は、フランスのレペです。詳しいことは皆さんもご存じかなと思いますが、249年前にフランスでろう教育をされていて、その弟子のミシェル・レペが手話を学び、その後アメリカに渡ります。ギャローデット大学は有名ですよね。そこで最初に手話を広めたのがこの人です。日本の場合は、まだまだとても遅れていて249年前の日本はというと、江戸時代の頃で鎖国をしていた時です。諸外国を封鎖していて、まだ手話などない時代でした。プロジェクターにはレペの写真を出しています。どんなお顔だったのだろうかと、写真を載せています。

福岡県での手話の歴史についても調べました。ご高齢の先輩方や、もうお亡くなりになった方もいらっしゃいます。息子さんや娘さんに何か昔の写真など残っていないかと聞いたりもしましたが、遺品の整理等で残っていないと言われるのが大半でした。残っている場合もありましたが、資料としては余りにも少なく、それだけではよくわかりませんでした。

今、全日本ろうあ連盟の機関誌部長を務めている中村さんをご存じでしょうか？彼とは福岡で地域が一緒なのですが、そういう資料ならあるよ！

と言われました。全国手話研修センターにはそういった資料があるから調べに行ってみたらいいよと言われ、行くことにしました。２年前ですが寒い時に朝早く１人で新幹線に乗り、京都に行きました。

全国手話研修センターに行ったのは、その時が初めてでした。全国各所、いろいろ行っていましたけど、研修センターには初めて行きました。嵯峨野の駅のすぐ近くですよね。そこで高田さん、— 皆さんご存じかと思いますが、私が全日本ろうあ連盟監事を務めていた頃には、高田さんには色々とお世話になりました。その時は高田さんが副理事長の時だったかと思います。いろいろお世話になっていて、優しい方です。その高田さんとお会いして、非常に丁寧に対応して下さいました。そして、今プロジェクターに出ているこの本を見せていただきました。高田さんの机の一番下の引き出しから出された時には、何かなと思いました。幾重にも重ねて包装してあり、ほどいていくと、あの本が出てきたのです。プロジェクターで見ると大きく見えますけれども実際はＢ５くらいの大きさです。

この本には、明治11年くらいから昭和10年くらいまでの歴史が載っています。でもこの中に福岡県の歴史も載っているかどうかというのは定かではありませんでしたので、とにかく開いて見てみました。この本はとても古いので紙も脆くなっていたので、とても慎重に見せて頂きました。すると、福岡県の歴史も載っていました。まだ協会等も設立される前の話です。今は全日本ろうあ連盟と言っていますが、戦前は日本ろうあ協会と言っていました。その支部で福岡部会というのがありまして、それを見つけました。今はお年を召した年配の方や、もう亡くなってしまった方などがたくさん載っていました。福岡盲唖学校卒業とかも書いてありましたので、貸して頂きたいとお願いをしたのですが、これはとても貴重な物なので、他にはもう残っていないから貸せないと断られました。それではコピーをするのはどうかと聞きましたら、それは構わないということでしたので、50枚くらいでしょうか、コピーさせていただきました。

それを持ち帰って読みましたが、それでも情報が足りないので、亡くなった関係者の娘さんなどにも聞いたりしましたが、やはり資料は残っていないということでした。そこで、福岡盲唖学校の後に福岡聾学校になったので、もしかしたら、聾学校になら何か残っているのではないかと思って、校長先生に連絡を取り、伺いました。本作成の趣旨をお話すると、資料はあるとおっしゃられたので、見せて頂きました。それはDVDまで作ってありました。資料はとても古くて明治・大正・昭和にかけて写真まで残っていました。とても貴重な物でしたので、借りるのは躊躇しましたが、資料が全てそのDVDに入っているので差し上げますとおっしゃっていただきました。申し訳なくもあったのですが、出来上がった本をお渡しするという約束をして、DVDはありがたくいただきました。

福岡県ろうあ協会の事務所には、昔の資料は明治以降のものはなく、昭和40年くらいからのものであれば残っていました。しかし、そんなに詳しいものは残っていませんでしたし、またところどころ抜けているところもありました。ただ、新聞はたまたま保存されていました。皆さんご存じの福岡ろうあニュースが昭和57年から取ってありましたので、その膨大な新聞を取り出して調べました。

いろいろなところから調べたので、思った以上に大変な作業でした。それをまとめたのがこの１冊の本です。これを読んだらわかっていただけるかなと思います。どうぞ、読んでみて下さい。

盲唖学校は京都が一番古いというのはご存じですよね。明治11年に設立されました。その次が東京とか大阪とか名古屋とか次々と出来るのですが、九州では当然福岡が一番に建って、一番古いのかなと思ったのですが、皆さんどう思いますか？福岡市では何回か講演をしていますので、聞かれた方はご存じかと思いますが、明治31年に長崎で最初に設立されています。どうして長崎なのかなと考えてみると、明治以前は鎖国をしていて、諸外国と文化交流をしていたのは長崎だけでしたよね。なので、教育関係も進んでいたのでしょうね。九州では最初にその盲唖学校が設立されました。では、その次は福岡かなと思いますが、次は鹿児島なのです。昔、西南戦争があったのはご存じですよね。その時の隊長の西郷隆盛がいて、

それで盲唖学校が設立されたようです。福岡の盲唖学校が設立されたのは九州で４番目です。設立のきっかけについては、後でお話しします。

学校を設立しようと言い始めた人は一体誰か？父母の会なのか？聾学校からお借りした資料を見てわかりました。プロジェクターに出ている小島留蔵氏です。この方は目が見えません。手話はできません。明治の頃の話です。京都か東京かどちらかわかりませんが、どちらかの盲唖学校を卒業されて、福岡に戻ってこられました。すると福岡には盲唖学校がない。これではダメだということで、福岡県に必要性を力説し、ようやく認められました。その時に一生懸命に活動をされて、盲唖学校が設立されました。

最初の名前は慈善会という名前でした。今は工芸会ワークセンターといいますね。明治の頃というのは聴覚障害者が会社や企業に就職するのはなかなかできない時代でした。それで、聴覚障害者を集めてここで作業をして色々な物を作って販売をしていました。ここが最初に建ち、戦後、福岡県ろうあ福祉会という法人に正式名称を変えました。今年11月で100周年を迎え、祝賀会が催されました。今は大きな敷地に建ってあり、その隣には聴覚障害者の老人ホームになっています。京都のいこいの村よりも古いということになります。

盲唖学校は明治11年に設立され、福岡でもその後運動が行われ明治43年に設立されています。

福岡では因幡うどんという店を町中でよく見かけます。その名前はどこから付けられたのかなと思っていました。土地の名前なのか？人の名前なのか？うどんはおいしいものですが、どこから来たものなのかと思っていました。あのヤフードームの近くに大きな総合図書館があります。そこに行って調べました。特別な閲覧室で本を借りて見てみました。ここも資料を借り出すことはできませんでした。コピーをお願いしましたら、ＯＫでしたので、コピーをしました。それで、名前の由来がわかりました。今の新天町の横にある町の名前が因幡町と言っていたのですね。それでそこからこの名前が付けられたのだとやっとわかりました。

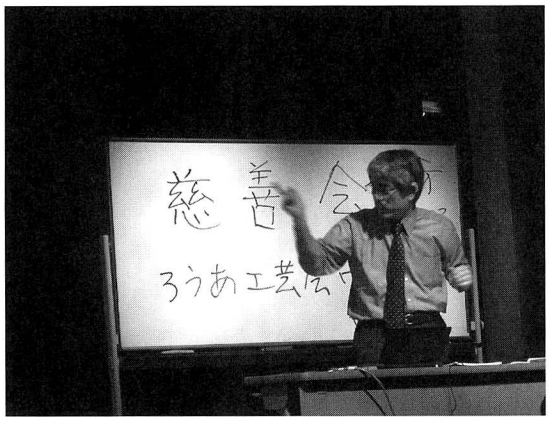
その因幡町で初めて、福岡盲唖学校が福岡高等女子高等学校の部屋を一部借りて開かれました。プロジェクターに出ているこの地図も総合図書館でカラーコピーをしていただきました。この地図に載っていました。今とは地名等大きく変わっています。これは大正６年くらいの地図になると思います。このろう史の本にも載せています。福岡市でも天神は大きな街ですが、皆さんご存じですか？ここから地下鉄でいくつか行ったところが天神駅です。最初に盲唖学校が設立されたのは、この女学校の中にありました。その後移転したところがこの地図の下の方に載っています。盲唖学校と書いてあります。

設立当時、盲唖学校で撮った写真ですが、皆さん知っている方はいらっしゃいますか？藤本先生が写っていらっしゃいますね。大正６、７年の頃にここで２年間教鞭をとっておられました。生徒と交流をされていたのですね。私もこの写真を見て驚きました。

藤本さんは全日ろう連の理事長をされた方です。ここに歴代理事長の写真を並べています。新しい石野理事長は載っていません。ちょっと準備が間に合わなくて申し訳ありません。

移転した場所と設立当初の盲唖学校の写真です。周りが写っています。この写真は木工と縫製の部屋で、その様子が写っています。木工と洋裁と２ヶ所あります。この表紙の絵は、今プロジェクターに映っている写真と同じですね。表紙ですが、どうしようかといろいろ考えていました。福岡タワーがいいのではないか、ヤフードームがいいのではないか、といろいろ言われたのですが、私のイメージとは違っていて、歴史的なイメージが良いと思っていろいろ調べて選んだのが、この絵です。この絵は名前を見てみると私を教えて下さった直方聾学校の田代先生が書いた絵でした。先ほどの写真と同じだったのでこの絵を選びました。田代先生は、今プロジェクターに出ている人です。皆さんはご存じないかも知れませんが、福岡盲唖学校を卒業されて京都に行き絵の学校に行かれて、腕を磨かれて福岡に帰ってこられたのです。その方が戦後…これは直方という手話です。筑豊というところをご存じですか？その近くに直方聾学校があります。そこで図画を専門に教えてらっしゃいました。まだ私が鼻垂れ小僧の時の先生です。口話を厳しく指導されていた時代でしたが、絵の授業の時には自分で手話をして下さいました。自

分と同じ聴覚障害者で、本当に文章も巧みですばらしい人だったのです。しかし、職員室に行くと他の先生方とは手話というか身振りでコミュニケーションをとっていらっしゃいました。学校では口話を厳しく指導されていたのに先生方は身振りのようでも手話でコミュニケーションを取っているのが当時は不思議でした。




その先生が描いた絵だったので、表紙に載せたかったのです。表紙の木目ですが、校舎もその頃は木造でしたので、そのイメージで木目を写真に撮って表紙にしました。現在は移転を繰り返し、早良区の荒江というところに落ち着きました。これは、取り壊される途中の写真です。それとこちらは取り壊された後の現在の様子です。下に映っているのが以前の写真です。今は取り壊されて立派なビルが建っております。そこに聾学校があったという記念碑があるかどうかはわかりません。戦前福岡部会が設立されたのは大正９年です。そこに集まって記念の写真を撮っております。藤本先生にも来て頂いております。この写真の方です。そばにいる方は聴覚障害者の先生です。矢印の平野さんは私が若い時よくしてくださいまして、明治の頃のことなどいろいろ話して下さった方です。今はもう全員亡くなられています。残念ながらその方の資料等もなくなっているので、もう話を聞くこともできません。

太田先生、今会場にいらっしゃいますか？いらっしゃいました。今福岡教育大学で言語学を専門に教えている先生です。手話の堪能な方です。その方のおじいさまは聴覚障害者で、創立記念の写真にも載っています。お名前はこれで間違いないでしょうか？改めまして、ご両親は健聴者でこのおじいさまは母方のおじいさまに当たります。小さい頃は手話で話をしていて、手話を覚えられ上手になられたんですね。おじいさまも亡くなられて、その後おばあさまが亡くなられて、すぐに通訳士の試験に合格されました。

関東大震災の時の資料ですね。義捐金のカンパをお願いしているところですね。今のお金でいうとたいした金額ではないと思われるかもしれませんが、当時で換算すると大きな金額だったんです。

なるほどと思うことがありました。ろうあ者大会、スポーツ大会、体育大会などいろいろな大会があります。戦前は陸上競技大会が行われていて、九州で開かれた場合も全国各地北海道や東京などから来るとお金の問題もあり大変で、参加したのは福岡と熊本だけでした。開催された会場は、図書館から借りた地図でわかりました。皆さんの中には宿泊されてご存じの方もいらっしゃるかと思いますが、クローバープラザの横から西鉄電車春日原駅あたりに今はビルが立ち並んでいます。そこに広い競技場があったのです。JRと西鉄の線路は変わっておりませんが、周りはずいぶん変わっています。まだ何もない時の写真です。この地図で矢印の場所にクローバープラザが建っております。競技をしているこの写真に写っているのが聴覚障害者なのか、ちょっとわかりません。

この写真の方は西村春雄さんです。福岡盲唖学校を卒業されています。慈善会に入られて、一般の会社にはなかなか入れなかったので、今の工芸会に入られていました。ものすごく体が強靭で柔道も強くて、スポーツ全般なんでも出来る方でした。陸上でも高跳びなどする方でそのどれもで優勝される方でした。明治のころには健聴者からいじめられていて、それをやり返すために強くなり、かかってきた人みんなを投げ倒すような方でした。本当に強靭な方です。柔道は３段で通常の大会に出ても、健聴者と互角にやり合ってそこでも優勝するような方でした。すばらしい方ですよね。残念なことに今年の６月に亡くなられました。このプロジェクターには「ご健在です」と書いてありますが、その後亡くなられました。この本へのご協力ありがとうございました。ご冥福をお祈り申し上げます。この写真は明るく笑っておられます。

戦前の旗です。福岡部会の旗に、各地の体育部

の旗です。昔なので、漢字ばかりかと思いきや、意外にもローマ字が使われているものもあり、驚きました。昭和15年くらいの役員で活動をされていた方々です。今では当然のように、役員というと聴覚障害者ですが、以前は学校の先生方が務められることが多かったです。幹部ではない役職を聴覚障害者が担当していました。

先程役員に名前がありましたこの方は、東京盲唖学校を卒業されて戻ってこられて、活動されていた方です。生まれは大牟田市です。遡ると家は立花藩柳川の医者の血筋で、ご兄弟は12人いらっしゃいます。男の子が９人女の子が３人です。彼は４番目で、聴覚障害者ということでもあり、おじさんが軍隊にいて、そこから東京に盲唖学校があると聞いて、それならと行かれたのです。ご本人は小さくてわからなかったのかも知れませんが、船に乗って汽車に乗って７日間かけて行かれました。昔は大変でしたよね。何度も乗り換えて１週間かかって東京に行ったのです。

学校に入りいろんなことを学ばれました。卒業して陶芸をされていましたが、体調を崩して福岡に戻ってこられました。実家が農家をされていました。その後協会に入って活動を始められました。戦前も活動をされていたと思いますが、ろうあ会館設立のためにご尽力された方です。今はご高齢になられて、60～90歳までの間には富士山に15回も登られています。もう亡くなられてしまいました。地元の高齢ろうあ者の話を聞きましたが、ご夫婦のコミュニケーション方法は、手話ではなくて空書だったそうです。

これはみなさんもご存じだと思います。ご覧下さい。戦後、行政に要望を出す等の活動はまだされておらず、交流等がメインだった頃です。戦中に活動をしていなかったろうあ運動が再開されたのは、戦後役員がもう一度始めようということで役員会をすることになり集まりました。場所はどこかわかりません。当時聾学校は４つに分かれていましたので、各所でそれぞれに協会を立ち上げていました。北九州の設立５周年記念の写真です。これは筑豊で、炭坑で有名なところです。そこの結成総会です。次は久留米３周年記念の写真です。これは全九州ろうあ者大会です。第１回が開かれたところで、場所は西日本新聞会館の屋上です。みんなで記念写真を撮ったものです。

九州で一回目の大会を開き、準備をした方の名前をご紹介しましょう。聾学校の中に準備委員会を作りまして、色々準備をしました。準備に関わった方達です。今はほとんど亡くなられて、その中で一人だけご健在です。入江さんです。84才になられます。他の方は亡くなられました。その後何年かは詳しい記録がありません。これは昨日の講演でお話があった西川先生です。その時の先生方です。「わが指のオーケストラ」という漫画のモデルになった高橋先生です。口話主義に反対して手話の必要性を訴えられた方です。この方をお迎えして記念に写真を撮りました。写真家で有名な井上孝治さんの若い時の写真です。この写真に写っている方は大方がお亡くなりになっていて、上段の女性くらいがまだご健在だと思います。

これはご存じだと思いますが、福岡県は野球が強かったのです。全国一になったこともあります。これは最初の野球の試合です。学生の時に野球チームを立ち上げ、いろいろ試合をしていました。この写真を見て地元の人は面影があるので、どなたかはわかると思います。会場は大濠公園の近くでした。現在は福岡市美術館がある辺りです。その後全国の野球大会が京都であり、そこで福岡チームが優勝しました。優勝して、翌年は埼玉に行って優勝旗返還をしましたが、その年は優勝旗を手にして帰ることは出来ませんでした。

昨日全日本ろうあ連盟福祉部長の太田さんから話があったと思います。これは田篭さんの写真です。太田さんのお父さんの船を前にして仁王立ちして、漁師で使う船舶免許は取れるのにどうして車の免許は取れないのか！おかしいといって運転免許取得の運動をされた方です。手話では、親指と人差し指で帽子のあごひもをなぞるようにします。どうしてこう表すかというと、小さい頃学校に行く時に帽子をかぶっていきます。でもすぐに帽子が取れてしまうので、しっかりあごひもをしなさいといつも注意を受けていたので、いつもしっかり帽子をかぶりあごひももしていたそうです。その様子を見て同級生が、いつもきっちりあごひもをしているなと、そのように表すようになったそうです。この方は若い頃洋裁の仕事をしていました。大阪の方で学び技術は大した腕前

だったそうですが、戦前に地元が農家なので、そちらに戻りました。しかし自営業をしたいと思ったそうです。健聴者の奥様とご結婚されて、洋裁のお店を持ちました。運転免許は取れないとわかっていたので、自転車でお得意先を回っていました。しかし、雨の日や雪の日は自転車では本当に大変です。聞こえる人は車に洋服を積んで行けるのに、聞こえない人は自転車で行かなければいけません。お得意先にも車の方が早く着くので、そこで仕事を取られたりと、悔しい思いもしましたので、免許取得の申請を何度もしましたが、全部断られました。本来は違反なのですが、捕まってもいいという覚悟で車に乗って仕事をしていたのです。その頃でいうとスクーターですね。見たことはあります。田舎の警官が来て、「免許がないからダメ！」だとこっぴどく叱られましたが、無視をしていました。警官は警官で何度も繰り返し違反をするので、またかと思っていたようです。たまたま奥様は運転ができました。ある雨の日に、福岡市の西新のあたりの駅に車を止めていたら、警官に「免許は？」と尋ねられました。その時は妻が一緒でしたので、免許がないことと耳が聞こえないことを通訳してもらいました。免許を持っていないなら、ちょっと来なさい！ということになりました。捕まってもいい覚悟で警察に行きました。警察署で免許がないのに何故車を運転するのだ！と聞かれて、ここぞとばかりに今までの思いの丈を話しました。奥様も泣きながら通訳をして思いを伝えました。

なぜ聞こえない人は免許が取れないのか？生きていくためには車は必要だと切々と訴えました。その場にいた警官たちも、違反をする気持ちが分かるだけに何とかしてあげたいのでしょうが、法律があるからどうしようもない。田篭さんも刑務所に入ったって構わないんだ！獄中で死んだって構わない！耳の聞こえない人に免許を与えて欲しい！と涙ながらに訴えました。そのことが警察の上層部の方の耳にも届いて、そこから本格的な運動が始まったのです。四国の高松で開かれた全日ろう連の評議員会にかけられて、運動は広がっていきました。15年間という長い期間運動を続けました。その結果ようやく運転免許取得を認めてもらえました。その後に田篭さんは亡くなられましたが、ご苦労を考えて感謝したいと思います。

その後、厚生大臣賞を授与されています。以前は手話通訳もない、確立したろう教育の制度もない、そのような環境の中でもたくましくろう運動をされたということで、賞を授与されています。本当にご夫婦２人で一生懸命活動されたご苦労のおかげだと思います。

ろうあ会館を皆さんご存じでしょうか？全国の中でも珍しく自費で会館を建てました。設立委員会を設け、カンパを募りました。その様子の写真です。その一番右の方は先程も出しましたが、104歳で亡くなられた三原さんです。昭和35年福岡県から認可を受けて、幸福の羽根の活動をしました。昨日は田口さんの来賓挨拶の時に緑の羽根と言われたのですが、本当はオレンジです。これはその当時のオレンジの羽根です。学校などいろいろと一般の方の所を回り、３年間活動しました。530万円程度のカンパが集まりました。現在の価値に換算すると、きっと５千万円程度でしょうか。もっとするかもしれませんね。そのおかげでろうあ会館を設立することができました。

この写真は写真家の井上孝治さんです。今でもご自宅に写真が残されていましたので、それをちょっと拝借して参りました。向こう側が福岡聾学校です。ろうあ会館の設立準備委員会の委員長をしてくださいました。建物の中の様子の写真です。最初は新築の建物の独特なにおいがしていました。２階はお客さまが宿泊できるようになっていました。一般が600円、会員は300円でした。食事は付いていませんでした。右側は協会の事務所で、３畳ほどの狭いスペースに机を置き、こじんまりとしていました。私が若い頃もこちらにおりました。見学をしている様子の写真です。狭いところで廊下はすれ違うのにも窮屈なくらい狭かったです。みんな集まって、お祝いをしました。その様子の写真です。その後月日が経って20年後の様子がこの写真です。古くなってしまっていますね。雨漏りがするほどの具合で、台風でも来たら壊れそうな状態になってしまっています。この写真では、玄関口に出版の本などが置いていました。

新しく建て直そうという意見が出て、移転をして大きな物を立て替えようと運動をしている時に、県知事ご本人が（奥田知事）突然事務所に来られ

ました。慌てて片付けをした覚えがあります。要望の内容を聞いて下さいました。10項目ほどの要望をお伝えした後、ろうあ会館の様子を見て回られました。きちんとお迎えできなかったのは残念でしたが、その時の様子の写真です。苦しい状態なので改築すべきか等、色々意見は出ました。福岡県の施設が建つのでそこに入るか、もう一度自らの手で会館を建て替えるか、ということについて話し合いをしました。今写真に出ている冊子を会員の皆さんに配布しました。もう一度自分たちでカンパをしてお金を集めるか、県の施設に入るかを決めるためです。結局県の施設に入るという意見が圧倒的に多く、自力で建てるという意見は少なかったので、県の施設に入るということに決まりました。そして、お別れの会の様子です。取り壊して今はもう何もない新地になっています。県の施設に入ったので、今現在は、春日のクローバープラザの中に移っています。

全国ろうあ者大会が昭和37年に初めて福岡県で開かれました。その当時の様子です。評議員会は、どこで開かれたのかと思って調べましたら、天神から歩いて５分～10分くらいのところにあるこの建物の２階でした。今は、ここも様子が変わり新しい建物が建っています。評議員が全国から集まり、その真ん中に記録者がいます。今は通訳者が記録をするものですが、以前は聴覚障害者が手話を見て記録をしていました。全国から集まった人たちなので、地域で手話がそれぞれ違っていたりして、なかなかわからず記録もできなかったと聞いています。昭和45年全国で手話講習会が始まりましたが、それよりも以前の話ですので、本当に手話が地域によって違うので、記録はままならなかったそうです。

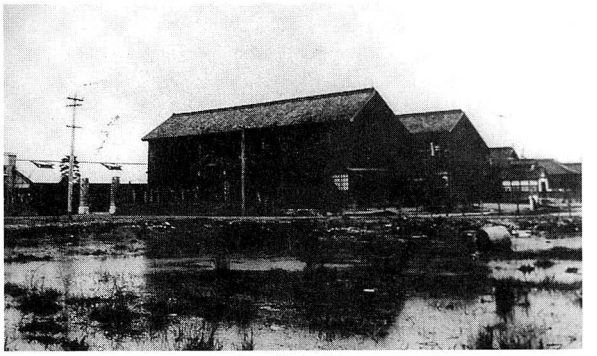
その近くです。今は取り壊されていて新しい建物が建っています。左側が昔の写真です。これは同じ場所の写真です。右下の写真は井上孝治さんが実行委員長として挨拶をされている様子です。その右側にいらっしゃるのが、手話通訳者の大阪聾学校の福島先生です。その当時の全国大会のパンフレットです。今は分厚いですが、当時はこんなに薄かったのですね。こちらに写っているのは実行委員用の冊子です。全国大会終了後に観光等をしますね。その時には通訳が付きますが、以前は通訳が付かなかったため西鉄のバスガイドさんを集めて手話を指導しました。たくさんの方に指導をしました。観光の時に手話で説明をしてもらいました。今日はその時の実際の旗を持ってこようと思っていたのですが、忘れました。その時は1,300人もの参加者がいました。1,800人が大会に参加して、その中で1,300人が観光するのですから、バスも23台にもなりました。本当に大変でした。１台に１人のガイドさんが一生懸命習った手話で案内をして下さいました。

ここに出ているアイラブパンフについては、差別法などみなさんご存じだと思うので、割愛いたします。

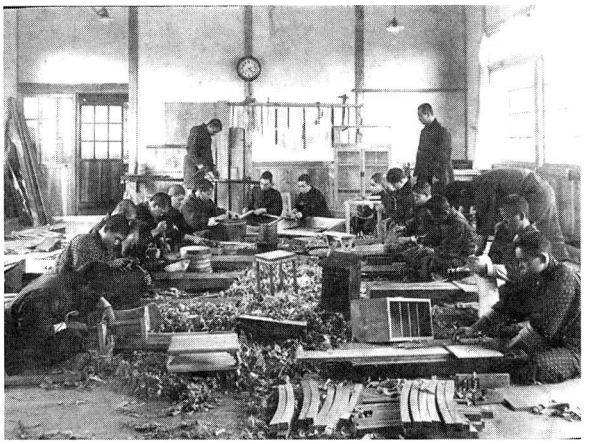
最後にこの２年間、少しずつこつこつと作業をしてきました。時にはもう諦めてしまいたいと思う時もありましたが、何とか完成することができました。この写真は作成している様子です。いろいろな資料を自宅に持ち込み、校正も５冊くらいしました。これで、私の話を終わりたいと思います。是非ご購入いただければありがたいと思います。

「福岡ろう史」表紙

①校舎新築大正５年　藤本敏文先生（最前左）



②新校舎移転

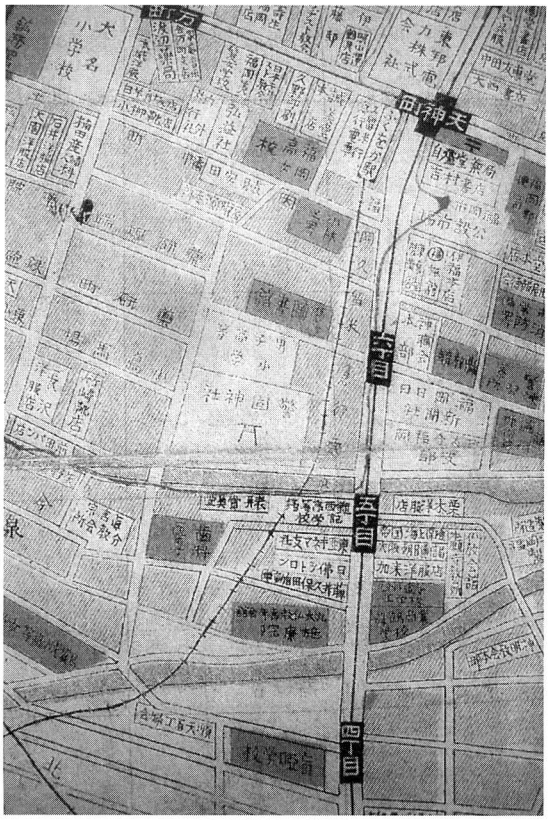


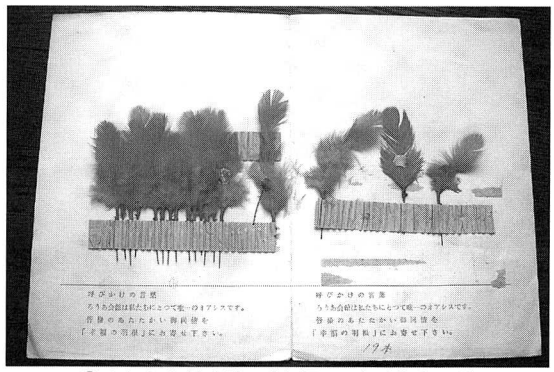
③工芸品木工部大正９年

④縫製部大正９年

⑤100歳誕生日三原種憲氏

⑥運動免許の訴求運動を行った田籠勝三氏


盲唖学校の地図


⑦ろうあ会館建設の「幸福の羽根」募金運動

⑧全国ろうあ者大会開催の前、手話を学ぶ西鉄バスガイドたち